

研究テーマ

比べて読む能力を高める指導の工夫

提案者 浅井大貴

I 研究テーマについて

1 テーマ設定の理由

本研究でいう比べて読む能力が高まった第1学年児童の姿とは、働く自動車の図鑑の叙述から車ごとの「つくり」の違いを読む姿である。この姿を目指すようになった経緯は以下のとおりである。

昨年度の第2学年の実践で、「がまくんとかえるくんシリーズ：アーノルド＝ローベル作品」を並行読書で扱い、「がまくん」の優しさが最もよく描かれている作品を選ぶ活動を行った。児童は、「がまくん」の行動に対し、最も好感をいだく作品を選んでいった。その後の話合いでは、優しさが読み取れる叙述を根拠にして、作品ごとに異なるその行動について話し合う姿を期待していた。しかし、叙述を根拠にしていなかったために、経験談の交流のようになり、優しさについての読みを深めることが不十分であった。複数の教材を扱う場合には、叙述の違いに着目した読み方を指導していく必要があることを痛感した。

そこで、今年度は、働く自動車図鑑を作り「しごと」と「つくり」を説明する言語活動を設定する。その図鑑は、ショベルカー図鑑やダンプカー図鑑のような、似た「しごと」ごとに分類していく。それは、同じショベルカーであっても、大きさが異なれば「しごと」が異なる。その違いが「つくり」の違いに反映されていることに気付き、「つくり」を示す叙述の違いに着目する必要感が児童の中に生まれることを期待するからである。

なお、説明する車を選ぶ場面では、詳細な「しごと」の内容を選んだ理由として、説明する場を設定しておく。それは、自分が選んだ車だけの「しごと」に応じた「つくり」を説明するために必要な、着目すべき叙述の見通しがもてるようにするためである。

そして、「つくり」については、読み取った内容を一度、付箋紙に書き留めるようにする。その後、似た「しごと」の車を選んだ友達と「つくり」が完全に重ならないように、付箋の内容を修正する場を設けることで、友達が書き出した言葉との違いに着目した読み方ができるようにしていく。

学習指導要領が改訂されてから、「読むこと」の指導では、文章全体を読み込む範囲とし、複数の叙述を関連させて読む活動が、重視されるようになってきている。第1学年では、複数の叙述を扱う第一歩として、叙述の違いに着目した指導が重要と考えている。

この研究主題に取り組むことで、低学年における複数の叙述の扱い方を確立していきたい。

以上のような考えから、本研究主題を設定し、実践に臨むこととした。



2 テーマにせまるための方策

研究主題にせまるため、次のような研究の視点と手立てを考え、実践を行う。

視 点

叙述の違いに着目した読み方を指導することで、比べて読む能力を高めていく。

〈手立て〉ショベルカー図鑑とダンプカー図鑑のような、似た「しごと」ごとに分類した図鑑を作る言語活動を設定する。その上で、「しごと」の違いを明確にするねらいをもつことで、「つくり」を示す叙述の違いに着目できるようにする。なお、読み取った「つくり」は付箋に記述して、操作しやすくする。